



学校だより

川越市立山田中学校

令和5年10月2日 発行

学校教育目標『人を尊び 本気で学び たくましく』

～ふるさと川越山田に自信と誇りを持てる生徒の育成～

競い合うこと

校長 守岡 信一

夏の間、一面の緑色だった田では稲刈りが進み、山田地区でも実りの秋となりました。役目を終えた案山子も、出張先（案山子まつり）から本校の東門に帰ってきます。ひときわ大きく緑色が鮮やかな鬼の案山子は、PTA 役員保護者さんが作ってくださったものです。小脇に山田中学校のゆるキャラ「山田くん」を抱え、とつてもチャーミングです。ぜひ、近くにお越しの際はご覧いただきたいと思います。

9月20日から運動部に所属する1,2年生にとって初の公式戦である「新人大会市予選会」が行われ、各会場で山中生が活躍しました。私も各会場をまわり、生徒の頑張る姿に感動しました。また、保護者の皆様には、当日の声援、お弁当の準備や健康管理面でのサポートなど、多くのご支援をいただき本当にありがとうございました。

結果は裏面にある通りですが、さらに上位の大会である県大会に進む部があれば、悔しい思いをした部もあります。成績をよくしたい、相手に勝ちたいと思う気持ちが高まるのは中学生として決して悪いことではありません。しかし、生徒は、ややもすると勝ち負けの結果だけに一喜一憂してしまうことがあります。それは、私たち大人でも同様にありえることです。

私はこのような大会や試合は「戦い」ではなく、「競い合い」の場であると考えています。「戦い」は勝つことが目的であるため、試合が終われば完結してしましますが、「競い合い」は継続が伴い、結果は通過点となります。特に中学校の部活動の目的は豊かな人間形成です。今回は負けてもそこから学べることはたくさんあります。生徒たちは、夏休みも含め顧問の先生方と一生懸命に練習をしてきました。私はその過程での努力を、結果よりも評価してあげたいと思います。山田中にはお互いを高め合える素晴らしい仲間と、それを支える情熱ある先生方がいます。さらに日々の学習や多くの行事を通し、仲間と学び合い、人として大きく成長してほしいと願っています。

さて、あと1か月もすれば紅葉が始まる時期となります。紅葉の美しさは色彩の多様さ、それぞれの「違い」にあるのではないのでしょうか。学校・家庭でも私たち大人は、子供たち一人一人の個性を尊重し、多様性の美を意識して、よく子供たちの声を聞きながら育てていくことが、私たちが子どもだった頃よりもより重要になってきているように感じます。子供たちには学習、生活、友人関係など、悩みながらもそれを乗り越え、新しい時代を逞しく生きていく力を身に付けてほしいと願っています。